

茨城県 ^{うしく}牛久市教育委員会

教育活動のねらいを共有することが
地域の支援を生み、働き方改革に寄与

地域住民による授業支援



体育科のマット運動や、家庭科の裁縫など、教員1人では細かい配慮が難しい実技教科の授業を中心に、保護者や地域住民がボランティアで子どもの学びを支援。



保護者ボランティアが教員研修時の自習を見守り



研修で教員が不在となる時、自習をする子どもを保護者ボランティアなどが見守ることで、他の教員が様子を確認する必要がなくなった。研修は午後にある場合が多く、特に小学校低学年は集中力の持続が難しいが、この支援が始まってから、落ち着いて学習に向かえるようになった。

「総合的な学習の時間」での防災教育をサポート



地域の防災拠点を調べる学習では、地域住民が探検ルートや資料の準備を全面的に担当。地域の防災マップの作成など、住民だからこそ分かる視点が盛り込まれた学習となり、教員の負担軽減とともに、子どもの学びの充実につながっている。

学校運営協議会による授業参観



学校運営協議会の委員への授業のねらいの説明は、口頭では伝わりにくかったが、研究授業に参加してもらうようになってから、学校が意図する学びに共感が集まった。それに伴い、学校の教育方針を踏まえた支援を得られるようになった。

茨城県牛久市は、2019年度に全校をコミュニティ・スクールとし、子どもの学びを充実させるとともに、教員の働き方を変えるという視点から、学校運営協議会*が学校単位で多様な支援を展開している。牛久市教育委員会の高森志保社会教育指導員は、次のように説明する。

「子ども中心の教育活動を充実させるためには、地域と学校が目標を共有する必要があります。そこで、2021年度より全市立小・中学校で学校運営協議会の委員にも研究授業を参観してもらい、目標を共有する場としています」

市を挙げて推進する「主体的・対話的で深い学び」を実践する授業で、子どもが生き生きと学ぶ姿を見た委員からは、「先生の大変さが分かった」「授業づくりの時間を確保するためにできることはないか」といった声が上がリ、様々なボランティア活動が展開されるようになった。それらの活動は、地域学校協働活動推進員が中心となり計画を立て

るが、多くの学校で授業支援、教員研修時の自習の見守り、校内の消毒などが行われている。また、小学4年生の「総合的な学習の時間」で行う地域の防災拠点を巡る活動では、地域住民が授業準備の中心を担う。学校が目指す学びを地域と共有したことで、「まずは子どもに考えさせて、質問されるまで教えない」といった教育方針も自然と統一された。

地域住民による支援を受け、教員からは、「授業づくりや生活指導に時間をかけられるようになった」「学校運営協議会の皆さんが、地域住民に本校の教育について説明してくれるので助かる」といった声が寄せられている。

「子どもの学びのために、地域の方々は一生涯懸命に取り組んでくれます。学びの質が高まるとともに、教員の負担が軽減され、働き方改革につながり、教育活動を充実させることができました。今後も、子どもの学びのために、地域とのつながりを広げていきます」(高森社会教育指導員)

* 牛久市の学校運営協議会の委員は、各学校平均で16人程度となっており、学校の管理職、区長や民生委員、PTA関係者、社会福祉協議会の関係者、学識経験者、地域学校協働活動推進員などが参加している。



牛久市教育委員会
生涯学習課
社会教育指導員
高森志保
たかもり・しほ

牛久市概要

人口 約8万4,000人 面積 58.92km²
市立学校数 小学校7校、中学校5校、義務教育学校1校
児童生徒数 小学校4,443人、中学校2,330人
地域学校協働活動担当職員数 2人

Web VIEWnext ONLINE

牛久市立ひたち野うしく小学校の取り組みをウェブサイトで紹介！ 右記の2次元コードからアクセスできます。

